

「日々の理科」(第 4080 号) 2025, 10, 10

「新燃岳の火山灰採取(6)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

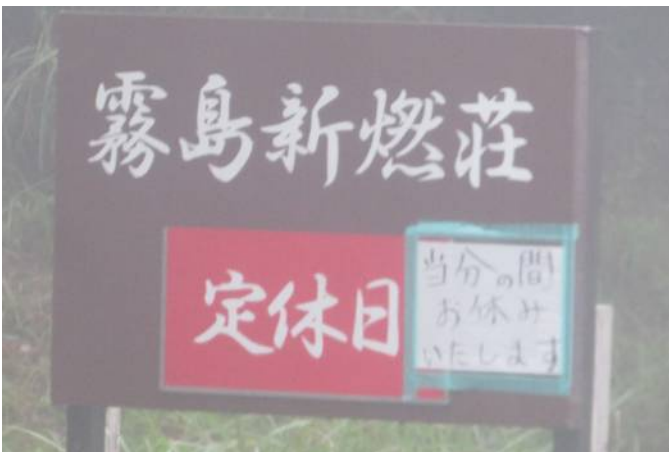
田中 千尋 Chihiro Tanaka



迂回路の途中には「霧島温泉」があります。道端に源泉が点在し、噴気活動も盛んで、湯気がもうもうと立ち込めていました。一帯は駐停車禁止です。



新湯温泉は、新燃岳に一番近い温泉で、国民宿舎もあります。事前に火山灰の状況を聞きたいと思い、何度か電話したのですが、繋がりませんでした。



繋がらない理由が現地でわかりました。噴火の影響

で、「当分の間休業」のなっていたのです。



それでも国民宿舎に向かう細い道は「通行止」ではなかったので、入ってみました。



(グーグルマップ/2024 年)

グーグルマップの「ストリートビュー」によれば、この道からは、正面に新燃岳山頂が見えるはずでした。残念ながら濃霧と雨で、何も見えませんでした。



しかし道端の水溜まりには、大量の火山灰が沈んでいます。深いところでは、20cm ぐらい堆積していました。湿ったまま採取するのは大変でしたが、「生きた学習材」なので、そのまま東京に持ち帰りました。